

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2021-62870

(P2021-62870A)

(43) 公開日 令和3年4月22日(2021.4.22)

(51) Int.Cl.
B65D 85/00 (2006.01)F I
B65D 85/00テーマコード (参考)
3E068

審査請求 未請求 請求項の数 14 O L (全 19 頁)

(21) 出願番号 特願2019-186623 (P2019-186623)
(22) 出願日 令和1年10月10日 (2019.10.10)(71) 出願人 000102544
エステー株式会社
東京都新宿区下落合1丁目4番10号
(74) 代理人 100089875
弁理士 野田 茂
(72) 発明者 田中 雄一
東京都新宿区下落合2丁目4番6号 エス
ター株式会社エステーR&Dセンター内
Fターム(参考) 3E068 AA40 BB15 CC03 CC15 CC22
CE03 DE02 EE15 EE21 EE22
EE24 EE32

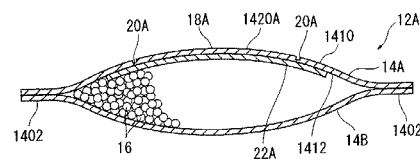
(54) 【発明の名称】 通気構造を有する非通気性フィルム体を備える薬剤収容袋および薬剤収容容器ならびに通気構造を有する非通気性フィルム

(57) 【要約】

【課題】 薬剤の使用時に発生するごみの量を最小限とし、環境上好ましい薬剤収容袋を提供すること。

【解決手段】 薬剤収容袋12を構成する非通気性フィルム体14Aに通気構造18Aが設けられている。通気構造18Aは、非通気性フィルム体14A、切り取り用溝部20A、通気性シート22Aを含んで構成されている。切り取り用溝部20Aは、非通気性フィルム体14Aの外表面1410に、被切り取り部分1420Aの切り取りを可能に設けられている。被切り取り部分1420Aが切り取られた後に、非通気性フィルム体14Aに被切り取り部分1420Aに対応した大きさの開口24Aが形成される。通気性シート22Aは、開口24Aを覆うように設けられ、その周囲の箇所が切り取り用溝部20Aの外側で非通気性フィルム体14Aの内面1412に接合されている。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

非通気性フィルム体で形成され薬剤を収容する薬剤収容部を有する薬剤収容袋であって

、

前記薬剤収容部の少なくとも 1 つの面を構成する前記非通気性フィルム体の箇所に通気構造が設けられ、

前記通気構造は、

前記非通気性フィルム体と、

前記薬剤収容部の外部に位置する前記非通気性フィルム体の外面に設けられ前記非通気性フィルム体の被切り取り部分の切り取りを可能とし前記被切り取り部分が切り取られた後に開口が形成される切り取り用溝部と、

前記薬剤収容部の内部に位置する前記非通気性フィルム体の内面に設けられ前記開口を覆い前記開口の周囲の前記内面の箇所に接合された通気性シートと、

を備えることを特徴とする薬剤収容袋。

【請求項 2】

前記薬剤収容部は、前記非通気性フィルム体の長さ方向の両端が接合された一对の横接合部の間に設けられ、

前記切り取り用溝部は、互いに対向しつつ一对の横接合部間に延在し前記被切り取り部分が切り取られた後に前記一对の横接合部の間にわたって延在する開口が形成されるように形成され、

前記通気性シートは、前記一方の横接合部にわたって設けられ前記開口を覆い前記非通気性フィルム体の前記開口の周囲の前記内面の箇所および一对の横接合部に接合され、

前記被切り取り部分は、前記薬剤収容部から一对の横接合部のうちの一方の横接合部にわたって切り取り可能に設けられ、

前記一方の横接合部において、前記被切り取り部分は前記非通気性フィルム体に対して剥離可能に設けられ、

前記一方の横接合部において前記非通気性フィルム体には、前記一方の横接合部に位置する前記被引き取り部分の切り取りを可能とした切り取り用構造が前記切り取り用溝部の延長上に設けられている、

ことを特徴とする請求項 1 記載の薬剤収容袋。

【請求項 3】

前記薬剤収容部は、前記非通気性フィルム体の長さ方向の両端が接合された一对の横接合部の間に設けられ、

前記切り取り用溝部は、互いに対向しつつ一对の横接合部間に延在し前記被切り取り部分が切り取られた後に前記一对の横接合部の間にわたって延在する開口が形成されるように形成され、

前記通気性シートは、前記一方の横接合部にわたって設けられ前記開口を覆い前記非通気性フィルム体の前記開口の周囲の前記内面の箇所および一对の横接合部に接合され、

前記被切り取り部分は、前記薬剤収容部から一对の横接合部にわたって切り取り可能に設けられ、

前記一对の横接合部において、前記被切り取り部分は前記非通気性フィルム体に対して剥離可能に設けられ、

前記一对の横接合部において前記非通気性フィルム体には、前記一对の横接合部に位置する前記被引き取り部分の切り取りを可能とした切り取り用構造が前記切り取り用溝部の延長上に設けられている、

ことを特徴とする請求項 1 記載の薬剤収容袋。

【請求項 4】

前記切り取り用構造は、前記被切り取り部分の切り取りを可能とした切り取り線あるいは前記切り取り用溝部に連続する前記切り取り用溝部と断面が同一の溝部で構成されている、

ことを特徴とする請求項 2 または 3 記載の薬剤収容袋。

【請求項 5】

前記被切り取り部分は前記一对の横接合部が対向する方向に延在する細長形状を呈し、
前記横接合部に位置する前記被切り取り部分に、前記被切り取り部分の長手方向で前記横接合部から離れる方向に突出し指で把持可能なつまみ片が設けられている、
ことを特徴とする請求項 2 ～ 4 の何れか 1 項記載の薬剤収容袋。

【請求項 6】

薬剤を収容しその一部が開放された容器本体と、
前記開放された箇所を閉塞する非通気性フィルム体とを備える薬剤収容容器であって、
前記非通気性フィルム体に通気構造が設けられ、
前記通気構造は、
前記非通気性フィルム体と、
前記薬剤収容容器の外部に位置する前記非通気性フィルム体の外面に設けられ前記非通気性フィルム体の被切り取り部分の切り取りを可能とし前記被切り取り部分が切り取られた後に開口が形成される切り取り用溝部と、
前記薬剤収容容器の内部に位置する前記非通気性フィルム体の内面に設けられ前記開口を覆い前記開口の周囲の前記内面の箇所に接合された通気性シートと、
を備えることを特徴とする薬剤収容容器。

【請求項 7】

前記非通気性フィルム体は幅と長さとを有し、
前記通気性シートは前記非通気性フィルム体の長さ方向の全長にわたって延在している、
ことを特徴とする請求項 1 ～ 5 の何れか 1 項記載の薬剤収容袋または請求項 6 記載の薬剤収容容器。

【請求項 8】

前記非通気性フィルム体は透明である、
ことを特徴とする請求項 1 ～ 5 の何れか 1 項記載の薬剤収容袋または請求項 6 記載の薬剤収容容器。

【請求項 9】

前記薬剤は、除湿剤であり、
前記通気性シートは、透湿非透水材料で形成されている、
ことを特徴とする請求項 1 ～ 5 の何れか 1 項記載の薬剤収容袋または請求項 6 記載の薬剤収容容器。

【請求項 10】

前記薬剤は、除湿剤であり、
前記通気性シートは、透湿透水材料で形成されている、
ことを特徴とする請求項 1 ～ 5 の何れか 1 項記載の薬剤収容袋または請求項 6 記載の薬剤収容容器。

【請求項 11】

非通気性フィルムであって、
前記非通気性フィルムの所定の長さ毎に通気構造が設けられ、
前記通気構造は、
前記非通気性フィルムと、
前記非通気性フィルムの厚さ方向の一方の面に設けられ前記非通気性フィルムの被切り取り部分の切り取りを可能とし前記被切り取り部分が切り取られた後に開口が形成される切り取り用溝部と、
前記非通気性フィルムの厚さ方向の他方の面に設けられ前記開口を覆い前記開口の周囲の前記他方の面の箇所に接合された通気性シートと、
を備えることを特徴とする通気構造を備えた非通気性フィルム。

【請求項 12】

前記被切り取り部分に、切り取る旨の表示が設けられている、

ことを特徴とする請求項 1～5 の何れか 1 項記載の薬剤収容袋または請求項 6 記載の薬剤収容容器または請求項 11 記載の通気構造を備えた非通気性フィルム。

【請求項 13】

前記被切り取り部分は、互いに間隔をおいて複数設けられ、

前記通気性シートは、前記複数の被切り取り部分が切り取られることで形成される複数の開口を覆うように設けられている、

ことを特徴とする請求項 1～5 の何れか 1 項記載の薬剤収容袋または請求項 6 記載の薬剤収容容器または請求項 11 記載の通気構造を備えた非通気性フィルム。

【請求項 14】

前記通気性シートは単一である、

ことを特徴とする請求項 13 記載の薬剤収容袋または薬剤収容容器または通気構造を備えた非通気性フィルム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、通気構造を有する非通気性フィルム体を備える薬剤収容袋および薬剤収容容器ならびに通気構造を有する非通気性フィルムに関する。

【背景技術】

【0002】

芳香剤や消臭剤、防虫剤、除湿剤などの薬剤は、使用前にそれらの薬剤が空気にさらされて効果を発揮しないように、非通気性の薬剤収容袋や薬剤収容容器に収容されて販売されている。

例えば、芳香剤を収納する薬剤収容袋では、袋本体の一方の面を形成する非通気性フィルム体と、袋本体の他方の面を形成する通気性フィルム体と、この通気性フィルム体を含む袋本体の他方の面の全域を覆う非通気性の外側フィルム体とで構成し、芳香剤の使用時にこの外側フィルム体を剥がすようにしている（特許文献 1）。

あるいは、芳香剤や消臭剤、防虫剤、除湿剤などの薬剤を通気性フィルム体からなる薬剤収容袋に挿入し、その薬剤収容袋を非通気性フィルム体からなる外側包装袋に封入し、使用時に外側包装袋から薬剤収容袋を取り出すようにしている。

また、除湿剤を収容する薬剤収容容器として、除湿剤を収容する容器本体と、容器本体の上部開口を閉塞する透湿非透水性シートと、この透湿非透水性シートを含む容器本体の上部の全域を覆う非通気性の外側フィルム体とで構成し、除湿剤の使用時にこの外側フィルム体を剥がすようにしている（特許文献 2）。

あるいは、外側フィルム体を設けず、薬剤収容容器を非通気性フィルム体からなる外側包装袋に封入し、使用時に外側包装袋から薬剤収容容器を取り出すようにしている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2012-86871 号公報

【特許文献 2】特開 2005-305415 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、従来の薬剤収容袋や薬剤収容容器では、薬剤の使用時に外側フィルム体を剥がして捨て、あるいは外側包装袋を破いて捨てることから、大きな面積の外側フィルム体や外側包装袋がごみとなり、資源的に大きな無駄となり、また、環境上好ましくない。

本発明は前記事情に鑑み案出されたものであって、本発明の目的は、薬剤の使用時に発生するごみの量を最小限とし環境上好ましい薬剤収容袋や薬剤収容容器を構成する上で有

10

20

30

40

50

利な通気構造を有する非通気性フィルム体を備える薬剤収容袋および薬剤収容容器ならびに通気構造を有する非通気性フィルムを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0005】

上述の目的を達成するため、本発明は、非通気性フィルム体で形成され薬剤を収容する薬剤収容部を有する薬剤収容袋であって、前記薬剤収容部の少なくとも1つの面を構成する前記非通気性フィルム体の箇所に通気構造が設けられ、前記通気構造は、前記非通気性フィルム体と、前記薬剤収容部の外部に位置する前記非通気性フィルム体の外面に設けられ前記非通気性フィルム体の被切り取り部分の切り取りを可能とし前記被切り取り部分が切り取られた後に開口が形成される切り取り用溝部と、前記薬剤収容部の内部に位置する前記非通気性フィルム体の内面に設けられ前記開口を覆い前記開口の周囲の前記内面の箇所に接合された通気性シートとを備えることを特徴とする。

10

また、本発明は、薬剤を収容しその一部が開放された容器本体と、前記開放された箇所を閉塞する非通気性フィルム体とを備える薬剤収容容器であって、前記非通気性フィルム体に通気構造が設けられ、前記通気構造は、前記非通気性フィルム体と、前記薬剤収容容器の外部に位置する前記非通気性フィルム体の外面に設けられ前記非通気性フィルム体の被切り取り部分の切り取りを可能とし前記被切り取り部分が切り取られた後に開口が形成される切り取り用溝部と、前記薬剤収容容器の内部に位置する前記非通気性フィルム体の内面に設けられ前記開口を覆い前記開口の周囲の前記内面の箇所に接合された通気性シートとを備えることを特徴とする。

20

また、本発明は、非通気性フィルムであって、前記非通気性フィルムの所定の長さ毎に通気構造が設けられ、前記通気構造は、前記非通気性フィルムと、前記非通気性フィルムの厚さ方向の一方の面に設けられ前記非通気性フィルムの被切り取り部分の切り取りを可能とし前記被切り取り部分が切り取られた後に開口が形成される切り取り用溝部と、前記非通気性フィルムの厚さ方向の他方の面に設けられ前記開口を覆い前記開口の周囲の前記他方の面の箇所に接合された通気性シートとを備えることを特徴とする。

【発明の効果】

【0006】

本発明の薬剤収容袋、薬剤収容容器によれば、商品の使用時に、ごみとなるのは被切り取り部分のみとなり、資源的な無駄を抑制する上で有利となり、商品の使用時に発生するごみの量を最小限とし、環境上好ましい薬剤収容袋、薬剤収容容器が得られる。

30

本発明の薬剤収容袋、薬剤収容容器に収容する薬剤には、芳香剤、消臭剤、防虫剤、除湿剤など、空気との接触を遮断することでその効果が発揮されず、空気に触れることでその効果を発揮する従来公知の様々な薬剤が使用可能である。

本発明の薬剤収容袋、薬剤収容容器は、本発明の通気構造が設けられた非通気性フィルムを用いて簡単に得られる。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】第1の実施の形態の薬剤収容袋の斜視図である。

【図2】図1のA-A線断面図である。

40

【図3】通気構造の拡大断面図である。

【図4】被切り取り部分を切り取った図1のA-A線相当の断面図である。

【図5】第2の実施の形態の薬剤収容容器の断面図である。

【図6】第2の実施の形態の薬剤収容容器の平面図である。

【図7】通気構造の拡大断面図である。

【図8】被切り取り部分を切り取った第2の実施の形態の薬剤収容容器の断面図である。

【図9】第3の実施の形態の薬剤収容袋の平面図である。

【図10】図9のA-A線断面図である。

【図11】被切り取り部分を切り取った図9のA-A線相当の断面図である。

【図12】第3の実施の形態の薬剤収容袋の使用状態の説明図である。

50

【図 1 3】第 1 の実施の形態の薬剤収容袋に用いる非通気性フィルムの説明図で、(A) は非通気性フィルムの正面図、(B) は (A) の B-B 線断面図である。

【図 1 4】第 2 の実施の形態の薬剤収容容器に用いる非通気性フィルムの説明図で、(A) は非通気性フィルムの正面図、(B) は (A) の B-B 線断面図である。

【図 1 5】第 3 の実施の形態の薬剤収容袋に用いる非通気性フィルムの説明図で、(A) は非通気性フィルムの正面図、(B) は (A) の B-B 線断面側面図である。

【図 1 6】第 4 の実施の形態の薬剤収容袋の平面図である。

【図 1 7】(A) は図 1 6 の A-A 線断面図、(B) は図 1 6 の B-B 線断面図、(C) は被切り取り部分のつまみ片を摘んだ状態の断面図である。

【図 1 8】被切り取り部分を切り取った状態の第 4 の実施の形態の薬剤収容袋の平面図である。

10

【図 1 9】(A) は図 1 8 の A-A 線断面図、(B) は図 1 8 の B-B 線断面図である。

【図 2 0】第 5 の実施の形態の薬剤収容袋の平面図である。

【図 2 1】(A) は図 2 0 の A-A 線断面図、(B) は図 2 0 の B-B 線断面図である。

【図 2 2】被切り取り部分を切り取った状態の第 5 の実施の形態の薬剤収容袋の平面図である。

【図 2 3】図 2 2 の A-A 線断面図である。

【図 2 4】第 6 の実施の形態の薬剤収容袋の平面図である。

【図 2 5】被切り取り部分を切り取った状態の第 6 の実施の形態の薬剤収容袋の平面図である。

20

【図 2 6】変形例に係る非通気性フィルム体、非通気性フィルム体の説明図で、(A) は非通気性フィルム体、非通気性フィルム体の正面図、(B) は (A) の B-B 線断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

(第 1 の実施の形態)

まず、図 1～図 4 を参照して第 1 の実施の形態から説明する。

第 1 の実施の形態は薬剤 1 6 を収容する薬剤収容袋 1 2 A である。

図 1、図 2 に示すように、薬剤収容袋 1 2 A は、2 枚の長方形の非通気性フィルム体 1 4 A、1 4 B の 4 辺 1 4 0 2 が接合されて構成された四方袋であり、使用時まで薬剤 1 6 がその効果を発揮しないように、非通気性フィルム体 1 4 A、1 4 B からなる薬剤収容袋 1 2 A の内部に封入されている。

30

薬剤 1 6 は、芳香剤、消臭剤、防虫剤、除湿剤など、空気との接触を遮断することでその効果が発揮されず、空気に触れることでその効果を発揮する従来公知の様々な固形や液体状の薬剤が使用可能であり、本実施の形態では薬剤 1 6 として固形の粒子からなる芳香剤を用いている。

なお、薬剤収容袋 1 2 A の構造には、三方袋、ピロー袋、ガセット袋、スタンディングパウチ袋など薬剤 1 6 の成分や使用形態に応じて用いられる従来公知の様々な構造が使用可能であり、実施の形態の構造に限定されない。

2 枚の長方形の非通気性フィルム体 1 4 A、1 4 B のうちの一方の非通気性フィルム体 1 4 A に通気構造 1 8 A が設けられている。すなわち、薬剤収容袋 1 2 A の少なくとも 1 つの面を構成する非通気性フィルム体 1 4 A の箇所に通気構造 1 8 A が設けられている。

40

なお、非通気性フィルム体 1 4 A、1 4 B には従来公知の様々なフィルムが使用可能であるが、本実施の形態では、通気構造 1 8 A が設けられる非通気性フィルム体 1 4 A に透明な合成樹脂製フィルムを用い、薬剤収容袋 1 2 A に収容された薬剤 1 6 の残量などの使用状況が簡単に確認できるように図られている。

【0009】

図 3、図 4 に示すように、通気構造 1 8 A は、非通気性フィルム体 1 4 A と、切り取り用溝部 2 0 A と、通気性シート 2 2 A とを含んで構成されている。

切り取り用溝部 2 0 A は、非通気性フィルム体 1 4 A の厚さ方向の一方に位置し薬剤収

50

容袋 1 2 A の外部に位置する外面 1 4 1 0 に、非通気性フィルム体 1 4 A の中央に位置する被切り取り部分 1 4 2 0 A の切り取りを可能に長方形枠状に設けられている。

切り取り用溝部 2 0 A は、薬剤収容袋 1 2 A の外面 1 4 1 0 から薬剤収容袋 1 2 A の内部に位置する内面 1 4 1 2 に貫通することなく形成され、その断面形状は、U 字状や V 字状、Y 字状や凹状など従来公知の様々な構造が採用可能である。

被切り取り部分 1 4 2 0 A は所定の面積を有し、切り取り用溝部 2 0 A の内側で長方形状を呈している。

非通気性フィルム体 1 4 A から被切り取り部分 1 4 2 0 A が切り取られた後に、図 4 に示すように、非通気性フィルム体 1 4 A に被切り取り部分 1 4 2 0 A に対応した大きさの開口 2 4 A が形成される。

開口 2 4 A は、薬剤収容袋 1 2 A に収容された芳香剤（薬剤 1 6）の揮発成分が薬剤収容袋 1 2 A の外部に十分に揮発される大きさの長方形で形成される。

このような切り取り用溝部 2 0 A は、レーザー加工によるハーフカット加工により簡単に形成されるが、切り取り用溝部 2 0 A の形成には従来公知の様々な加工方法が使用可能である。

【0010】

通気性シート 2 2 A は、非通気性フィルム体 1 4 A の厚さ方向の他方に位置し薬剤収容袋 1 2 A の内部に位置する内面 1 4 1 2 に設けられている。

通気性シート 2 2 A として、紙や不織布、孔を多数設けたプラスチックシートや網など従来公知の様々な通気性を有する素材が使用可能である。

通気性シート 2 2 A は、開口 2 4 A を覆う大きさの長方形状を呈し、その周囲の 4 辺が切り取り用溝部 2 0 A の外側で非通気性フィルム体 1 4 A の内面 1 4 1 2 に接合されている。

なお、被切り取り部分 1 4 2 0 A に、例えば、「切り取ってください」、「ゆっくりはがしてください」などの切り取る旨の表示を設けると、薬剤収容袋 1 2 A の購入者は、使用時に被切り取り部分 1 4 2 0 A を切り取ればよいということが瞬時に判断でき、薬剤収容袋 1 2 A の使い勝手を向上する上で有利となる。

この場合、被切り取り部分 1 4 2 0 A を、他の箇所比べて目立つ色彩や模様などを付しておく、薬剤収容袋 1 2 A の購入者は、使用時に被切り取り部分 1 4 2 0 A を切り取ればよいということがより瞬時に判断でき、薬剤収容袋 1 2 A の使い勝手をより向上する上で有利となる。

【0011】

このような薬剤収容袋 1 2 A を構成する非通気性フィルム体 1 4 A は、図 1 3 に示す通気構造 1 8 A を備える非通気性フィルム 2 6 A から得られる。

図 1 3 において想像線は、非通気性フィルム 2 6 A の切断予定箇所 2 8 A を示しており、切断予定箇所 2 8 A は非通気性フィルム 2 6 A の長さ方向と直交する幅方向に延在している。

そして、非通気性フィルム 2 6 A の所定の長さ毎に通気構造 1 8 A が設けられ、言い換えると、切断予定箇所 2 8 A で挟まれた非通気性フィルム 2 6 A の箇所毎に通気構造 1 8 A が設けられている。

通気構造 1 8 A は、非通気性フィルム 2 6 A と、非通気性フィルム 2 6 A の厚さ方向の一方の面に設けられ非通気性フィルム 2 6 A の被切り取り部分 1 4 2 0 A の切り取りを可能とし被切り取り部分 1 4 2 0 A が切り取られた後に開口 2 4 A が形成される切り取り用溝部 2 0 A と、非通気性フィルム 2 6 A の厚さ方向の他方の面に設けられ開口 2 4 A を覆うようにその周囲の箇所が非通気性フィルム 2 6 A の他方の面に接合された通気性シート 2 2 A とを備えている。

したがって、非通気性フィルム 2 6 A が切断予定箇所 2 8 A で切断されることにより、薬剤収容袋 1 2 A を構成する所定の長さの非通気性フィルム体 1 4 A が得られる。

【0012】

図 4 に示すように、第 1 の実施の形態の薬剤収容袋 1 2 A では、商品の購入者は、使用

10

20

30

40

50

時に被切り取り部分 1 4 2 0 A を切り取って使用する。

この場合、通気性シート 2 2 A は不透明な素材が多いが、このような不透明な通気性シート 2 2 A を用いた場合でも、通気性シート 2 2 A の周囲に位置する透明な非通気性フィルム体 1 4 A の箇所から内部の薬剤 1 6 の残量などの使用状況が簡単に確認でき、薬剤収容袋 1 2 A の使い勝手を向上する上で有利となる。

第 1 の実施の形態の薬剤収容袋 1 2 A によれば、商品の購入者は、使用時に被切り取り部分 1 4 2 0 A を切り取って使用すればよく、ごみとなるのは被切り取り部分 1 4 2 0 A のみとなり、資源的な無駄を抑制する上で有利となる。

すなわち従来のように、薬剤収容袋 1 2 A の一方の面の全域を覆う大きな面積の外側フィルムや外側包装袋を省略でき、薬剤 1 6 の使用時に発生するごみの量を最小限とし、環境上好ましい薬剤収容袋 1 2 A が得られる。

【0 0 1 3】

(第 2 の実施の形態)

次に、図 5 ～ 図 8 を参照して第 2 の実施の形態について説明する。

第 2 の実施の形態は薬剤 1 6 として除湿剤を収容する薬剤収容容器 3 0 である。

なお、以下の実施の形態では、第 1 の実施の形態と同一の箇所、同様な箇所には同一の符号、関連した符号を付してその説明を省略し、異なった箇所を重点的に説明する。

図 5、図 6 に示すように、薬剤収容容器 3 0 は、除湿剤（薬剤 1 6）を収容しその一部が開放された合成樹脂製で非通気性の容器本体 3 2 と、その開放された箇所を閉塞する非通気性フィルム体 1 4 C とを備えている。本実施の形態では、容器本体 3 2 の上部が開放され、非通気性フィルム体 1 4 C により容器本体 3 2 の上部が閉塞されている。

除湿剤（薬剤 1 6）として、例えば、空気中の水分を吸収し、液状化して水溶液となる固形の粒子からなる潮解性薬剤が用いられる。

除湿剤（薬剤 1 6）は、容器本体 3 2 の内部の高さ方向の中間部に、複数の貫通孔 3 4 0 2 を有する支持壁 3 4 上に載置されて配置され、使用時に、液状化した水溶液が容器本体 3 2 の底部に溜まる。

【0 0 1 4】

なお、薬剤収容容器 3 0 に収容する薬剤 1 6 は、空気との接触を遮断することでその効果が発揮されず、空気に触れることでその効果を発揮する従来公知の様々な固形や液体状の薬剤が使用可能であり、芳香剤や消臭剤、防虫剤などのように除湿剤以外の薬剤であってもよく、用いる薬剤 1 6 の成分や使用形態に応じて容器本体 3 2 の形状が適宜変更され、それら形状には従来公知の様々な構成が採用可能であり、開放される箇所も上部に限定されず、容器本体 3 2 の形状や使用形態によって容器本体 3 2 の側部や底部に適宜変更される。

薬剤収容容器 3 0 に収容された除湿剤（薬剤 1 6）は、非通気性フィルム体 1 4 C により外気と遮断され、使用時まで除湿機能が発揮されないように図られている。

容器本体 3 2 の上部には、容器本体 3 2 の上端から外側に拡がる平面視正方形枠状のフランジ 3 2 0 2 が設けられ、非通気性フィルム体 1 4 C は正方形を呈し、その 4 辺 1 4 0 4 がフランジ 3 2 0 2 に接合されて配置されている。

なお、非通気性フィルム体 1 4 C には従来公知の様々なフィルムが使用可能であるが、本実施の形態では、非通気性フィルム体 1 4 C に透明な合成樹脂製フィルムを用い、薬剤収容容器 3 0 に収容された薬剤 1 6 の残量などの使用状況が簡単に確認できるように図られている。

非通気性フィルム体 1 4 C に通気構造 1 8 B が設けられている。

【0 0 1 5】

図 5 ～ 図 7 に示すように、通気構造 1 8 B は、非通気性フィルム体 1 4 C と、切り取り用溝部 2 0 B と、通気性シート 2 2 B とを含んで構成されている。

切り取り用溝部 2 0 B は、薬剤収容容器 3 0 の外部に位置する非通気性フィルム体 1 4 C の外面 1 4 1 0 に非通気性フィルム体 1 4 C の被切り取り部分 1 4 2 0 B の切り取りを可能に設けられている。

10

20

30

40

50

被切り取り部分 1 4 2 0 B は所定の面積を有し、正形状を呈している。

非通気性フィルム体 1 4 C から被切り取り部分 1 4 2 0 B が切り取られた後に、図 8 に示すように、非通気性フィルム体 1 4 C に被切り取り部分 1 4 2 0 B に対応した大きさの開口 2 4 B が形成される。

開口 2 4 B は、薬剤収容容器 3 0 に収容された除湿剤（薬剤 1 6）の空気中の水分吸収機能が十分に発揮される大きさの正方形で形成される。

このような切り取り用溝部 2 0 B は、レーザー加工によるハーフカット加工により簡単に形成されるが、切り取り用溝部 2 0 B の形成には従来公知の様々な加工方法が使用可能である。

【0016】

通気性シート 2 2 B は、薬剤収容容器 3 0 の内部に位置する非通気性フィルム体 1 4 C の内面 1 4 1 2 に設けられている。

通気性シート 2 2 B は、開口 2 4 B を覆うようにその周囲の箇所が非通気性フィルム体 1 4 C の内面 1 4 1 2 に接合されている。

通気性シート 2 2 B は、除湿剤（薬剤 1 6）が空気中の水分を吸収できるように透湿性を有し、また、容器本体 3 2 の底部に溜まった水溶液が薬剤収容容器 3 0 の外部にこぼれないように非透水性を有している。

すなわち、通気性シート 2 2 B は、透湿非透水材料で形成されている。

なお、被切り取り部分 1 4 2 0 B に、例えば、「切り取ってください」、「ゆっくりはがしてください」などの切り取る旨の表示を設けると、薬剤収容容器 3 0 の購入者は、使用時に被切り取り部分 1 4 2 0 B を切り取ればよいということが瞬時に判断でき、薬剤収容容器 3 0 の使い勝手を向上する上で有利となる。

この場合、被切り取り部分 1 4 2 0 B に、他の箇所に比べて目立つ色彩や模様などを付しておく、薬剤収容容器 3 0 の購入者は、使用時に被切り取り部分 1 4 2 0 B を切り取ればよいということがより瞬時に判断でき、薬剤収容容器 3 0 の使い勝手をより向上する上で有利となる。

【0017】

このような薬剤収容容器 3 0 を構成する非通気性フィルム体 1 4 C は、図 1 4 に示す通気構造 1 8 B を備える非通気性フィルム 2 6 B から得られる。

図 1 4 において想像線は、非通気性フィルム 2 6 B の切断予定箇所 2 8 B を示しており、切断予定箇所 2 8 B は非通気性フィルム 2 6 B の長さ方向と直交する幅方向に延在している。

そして、非通気性フィルム 2 6 B の所定の長さ毎に通気構造 1 8 B が設けられ、言い換えると、切断予定箇所 2 8 B で挟まれた非通気性フィルム 2 6 B の箇所毎に通気構造 1 8 B が設けられている。

通気構造 1 8 B は、非通気性フィルム 2 6 B と、非通気性フィルム 2 6 B の厚さ方向の一方の面に設けられ非通気性フィルム 2 6 B の被切り取り部分 1 4 2 0 B の切り取りを可能とし被切り取り部分 1 4 2 0 B が切り取られた後に開口 2 4 B が形成される切り取り用溝部 2 0 B と、非通気性フィルム 2 6 B の厚さ方向の他方の面に設けられ開口 2 4 B を覆うようにその周囲の箇所が非通気性フィルム 2 6 B の他方の面に接合された通気性シート 2 2 B とを備えている。

したがって、非通気性フィルム 2 6 B が切断予定箇所 2 8 B で切断されることにより、薬剤収容容器 3 0 を構成する非通気性フィルム体 1 4 C が得られる。

【0018】

図 8 に示すように、第 2 の実施の形態の薬剤収容容器 3 0 では、商品の購入者は、使用時に被切り取り部分 1 4 2 0 B を切り取って使用する。

この場合、通気性シート 2 2 B は不透明な素材が多いが、このような不透明な通気性シート 2 2 B を用いた場合でも、通気性シート 2 2 B の周囲に透明な非通気性フィルム体 1 4 C の箇所が位置することから、薬剤収容容器 3 0 の上方から内部の薬剤 1 6 の残量などの使用状況が簡単に確認でき、薬剤収容容器 3 0 の使い勝手を向上する上で有利となる。

第 2 の実施の形態の薬剤収容容器 30 によれば、商品の購入者は、使用時に被切り取り部分 1420B を切り取って使用すればよく、ごみとなるのは被切り取り部分 1420B のみとなり、資源的な無駄を抑制する上で有利となる。

すなわち従来のように、容器本体 32 の上部の全域を覆う大きな面積の外側フィルムや外側包装袋を省略でき、薬剤 16 の使用時に発生するごみの量を最小限とし、環境上好ましい薬剤収容容器 30 が得られる。

【0019】

(第 3 の実施の形態)

次に、図 9 ～ 図 12 を参照して第 3 の実施の形態について説明する。

第 3 の実施の形態は薬剤 16 を収容する薬剤収容袋 12B である。

図 9、図 10 に示すように、薬剤収容袋 12B は非通気性フィルム体 14D から構成され、使用時まで薬剤 16 がその効果を発揮しないように薬剤収容袋 12B の内部に封入されている。

薬剤 16 は、芳香剤、消臭剤、防虫剤、除湿剤など、空気との接触を遮断することでその効果が発揮されず、空気に触れることでその効果を発揮する従来公知の様々な固形や液体状の薬剤が使用可能であり、本実施の形態では、薬剤 16 として第 2 の実施の形態と同様に除湿剤が用いられ、例えば、空気中の水分を吸収し、液状化して水溶液となる固形の粒子からなる潮解性薬剤が用いられる。

薬剤収容袋 12B はピロー袋であり、非通気性フィルム体 14D の長手方向の両端が接合された一対の横接合部 1202 と、非通気性フィルム体 14D の幅方向の両端がその長手方向の全長にわたって接合された縦接合部 1204 とを有し、薬剤 16 が収容された状態でその断面が偏平な環状を呈し、縦接合部 1204 と反対の面が正面をなし、縦接合部 1204 が位置する面が背面とされる。

【0020】

なお、薬剤収容袋 12B の構造には、三方袋、四方袋、ガセット袋、スタンディングパウチ袋など薬剤 16 の成分や使用形態に応じて用いられる従来公知の様々な構造が使用可能であり、実施の形態の構造に限定されない。

また、非通気性フィルム体 14D には従来公知の様々なフィルムが使用可能であるが、本実施の形態では、非通気性フィルム体 14D に透明な合成樹脂製フィルムを用い、薬剤収容袋 12B に収容された薬剤 16 の残量などの使用状況が簡単に確認できるように図られている。

薬剤収容袋 12B の正面をなす非通気性フィルム体 14D の箇所に通気構造 18C が設けられている。すなわち、薬剤収容袋 12B の少なくとも 1 つの面を構成する非通気性フィルム体 14D の箇所に通気構造 18C が設けられている。

【0021】

通気構造 18C は、非通気性フィルム体 14D と、切り取り用溝部 20C と、通気性シート 22C とを含んで構成されている。

切り取り用溝部 20C は、薬剤収容袋 12B の正面で薬剤収容袋 12B の外部に位置する通気性フィルム体 14D の外面 1410 に、正面の中央に位置する被切り取り部分 1420C の切り取りを可能に長方形枠状に設けられている。

被切り取り部分 1420C は所定の面積を有し、切り取り用溝部 20C の内側で長方形状を呈している。

図 11 に示すように、非通気性フィルム体 14D から被切り取り部分 1420C が切り取られた後に、非通気性フィルム体 14D に被切り取り部分 1420C に対応した大きさの開口 24C が形成される。

開口 24C は、薬剤収容袋 12B に収容された除湿剤（薬剤 16）の空気中の水分吸収機能が十分に発揮される大きさの長方形で形成される。

このような切り取り用溝部 20C は、第 1、第 2 の実施の形態と同様に、レーザー加工によるハーフカット加工により簡単に形成されるが、切り取り用溝部 20C の形成には従来公知の様々な加工方法が使用可能である。

本実施の形態では、開口 2 4 C は、一対の横接合部 1 2 0 2 の近傍まで延在する細長に形成され、より大きな開口面積が確保されている。

【0 0 2 2】

通気性シート 2 2 C は、薬剤収容袋 1 2 B の正面で薬剤収容袋 1 2 B の内部に位置する非通気性フィルム体 1 4 D の内面 1 4 1 2 に設けられている。

通気性シート 2 2 C として微多孔膜や多孔膜など従来公知の様々な透湿性、透水性を有する素材が使用可能である。

通気性シート 2 2 C は、開口 2 4 C を覆う大きさの長形状を呈し、通気性シート 2 2 C は、薬剤収容袋 1 2 B の正面の内面 1 4 1 2 で通気性フィルム体 1 4 D の長手方向の全長にわたって延在すると共に、開口 2 4 C の周囲の通気性シート 2 2 C 部分が内面 1 4 1 2 に接合され、言い換えると、開口 2 4 C に対向する箇所を除いた全ての箇所が内面 1 4 1 2 に接合され、一対の横接合部 1 2 0 2 の箇所では通気性シート 2 2 C はそれらの間に挟まれて接合されている。

このように通気性シート 2 2 C を通気性フィルム体 1 4 D の長手方向の全長にわたって設けると、開口 2 4 C の面積を大きく確保する上で有利となる。

なお、被切り取り部分 1 4 2 0 C に、例えば、「切り取ってください」、「ゆっくりはがしてください」などの切り取る旨の表示を設けると、薬剤収容袋 1 2 B の購入者は、使用時に被切り取り部分 1 4 2 0 C を切り取ればよいということが瞬時に判断でき、薬剤収容袋 1 2 B の使い勝手を向上する上で有利となる。

この場合、被切り取り部分 1 4 2 0 C を、他の箇所に比べて目立つ色彩や模様などを付しておく、薬剤収容袋 1 2 B の購入者は、使用時に被切り取り部分 1 4 2 0 C を切り取ればよいということがより瞬時に判断でき、薬剤収容袋 1 2 B の使い勝手をより向上する上で有利となる。

【0 0 2 3】

このような薬剤収容袋 1 2 B を構成する非通気性フィルム体 1 4 D は、図 1 5 に示す通気構造 1 8 C を備える非通気性フィルム 2 6 C から得られる。

図 1 5 において想像線は、非通気性フィルム 2 6 C の切断予定箇所 2 8 C を示しており、切断予定箇所 2 8 C は非通気性フィルム 2 6 C の長さ方向と直交する幅方向に延在している。

そして、非通気性フィルム 2 6 C の所定の長さ毎に通気構造 1 8 C が設けられ、言い換えると、切断予定箇所 2 8 A で挟まれた非通気性フィルム 2 6 C の箇所毎に通気構造 1 8 C が設けられている。

通気構造 1 8 C は、非通気性フィルム 2 6 C と、非通気性フィルム 2 6 C の厚さ方向の一方の面に設けられ非通気性フィルム 2 6 C の被切り取り部分 1 4 2 0 C の切り取りを可能とし被切り取り部分 1 4 2 0 C が切り取られた後に開口 2 4 C が形成される切り取り用溝部 2 0 C と、非通気性フィルム 2 6 C の厚さ方向の他方の面に設けられ開口 2 4 C を覆うようにその周囲の箇所が非通気性フィルム 2 6 C の他方の面に接合された通気性シート 2 2 C とを備え、通気性シート 2 2 C は非通気性フィルム 2 6 C の全長にわたって延在している。

したがって、非通気性フィルム 2 6 C が切断予定箇所 2 8 C で切断されることにより、薬剤収容袋 1 2 B を構成する所定の長さの非通気性フィルム体 1 4 D が得られる。

【0 0 2 4】

第 3 の実施の形態の薬剤収容袋 1 2 B は、使用時に、被切り取り部分 1 4 2 0 C を切り取って開口 2 4 C を形成し、図 1 2 に示すように、空気中の水分を吸収し、液状化した水溶液を収容する薬剤収容袋 1 2 B を容器 4 0 内に載置して使用する。

この場合、通気性シート 2 2 C は不透明な素材が多いが、このような不透明な通気性シート 2 2 C を用いた場合でも、通気性シート 2 2 C の周囲に透明な非通気性フィルム体 1 4 D の箇所が位置することから、薬剤収容袋 1 2 B の上方から内部の薬剤 1 6 の残量などの使用状況が簡単に確認でき、薬剤収容袋 1 2 B の使い勝手を向上する上で有利となる。

第 3 の実施の形態の薬剤収容袋 1 2 B によれば、商品の購入者は、使用時に被切り取り

部分 1 4 2 0 C を切り取って使用すればよく、ごみとなるのは被切り取り部分 1 4 2 0 C のみとなり、資源的な無駄を抑制する上で有利となる。

すなわち従来のように、薬剤収容袋 1 2 B の一方の面の全域を覆う大きな面積の外側フィルムや外側包装袋を省略でき、薬剤 1 6 の使用時に発生するごみの量を最小限とし、環境上好ましい薬剤収容袋 1 2 B が得られる。

【0025】

(第 4 の実施の形態)

次に、図 1 6 ～図 1 9 を参照して第 4 の実施の形態について説明する。

第 4 の実施の形態は第 3 の実施の形態の変形例であり、第 3 の実施の形態と同様に薬剤 1 6 を収容する薬剤収容袋 1 2 C である。

第 4 の実施の形態は、被切り取り部分 1 4 2 0 D の構造が第 3 の実施の形態と異なり、第 3 の実施の形態と同様な箇所、部材の説明は省略しまたは簡略化して第 3 の実施の形態と異なった箇所を重点的に説明する。

薬剤収容袋 1 2 C は、第 3 の実施の形態と同様に、非通気性フィルム体 1 4 E の長さ方向の両端が接合された一对の横接合部 1 2 0 2 と、一对の横接合部 1 2 0 2 の間の非通気性フィルム体 1 4 E の箇所により形成された薬剤が収容される薬剤収容部 1 2 2 0 とを備えている。

薬剤収容袋 1 2 C では、第 3 の実施の形態と異なって、図 1 6、図 1 7 (A) に示すように、一对の横接合部 1 2 0 2 のうちの少なくとも一方の横接合部 1 2 0 2 A から非通気性フィルム体 1 4 E が互いに対向しつつ切り離された状態で薬剤収容部 1 2 2 0 から離れる方向に突出する突出片 1 4 3 0 が設けられている。

薬剤収容袋 1 2 C の正面で薬剤収容部 1 2 2 0 をなす非通気性フィルム体 1 4 E の箇所に通気構造 1 8 D が設けられている。すなわち、薬剤収容袋 1 2 C の少なくとも 1 つの面を構成する非通気性フィルム体 1 4 E の箇所に通気構造 1 8 D が設けられている。

【0026】

通気構造 1 8 D は、非通気性フィルム体 1 4 E と、切り取り用溝部 2 0 D と、通気性シート 2 2 D とを含んで構成されている。

切り取り用溝部 2 0 D は、図 1 6、図 1 7 に示すように、薬剤収容袋 1 2 C の正面で薬剤収容部 1 2 2 0 の外部に位置する非通気性フィルム体 1 4 E の外面 1 4 1 0 に、一方の横接合部 1 2 0 2 A から一定の間隔をおいて他方の横接合部 1 2 0 2 B に向けて延在する一对の縦部 2 0 D-1 と、他方の横接合部 1 2 0 2 B に沿って延在しそれら一对の縦部の先端を接続する横部 2 0 D-2 とを有している。

被切り取り部分 1 4 2 0 D は、一对の縦部 2 0 D-1 と横部 2 0 D-2 とで囲まれ一定の幅で一对の横接合部 1 2 0 2 の間で延在する第 1 部分 1 4 2 0 D-1 と、第 1 部分 1 4 2 0 D-1 に連続し第 1 部分 1 4 2 0 D-1 と同じ幅で一方の横接合部 1 2 0 2 A から突出片 1 4 3 0 にわたって延在する第 2 部分 1 4 2 0 D-2 とを備えている。

【0027】

第 2 部分 1 4 2 0 D-2 は、一方の横接合部 1 2 0 2 A と突出片 1 4 3 0 の箇所において一对の縦部 2 0 D-1 の延長上に設けられた切り取り線からなる切り取り構造 1 4 3 2 により一方の横接合部 1 2 0 2 A と突出片 1 4 3 0 に対して切り取り可能に設けられている。

したがって、突出片 1 4 3 0 には、切り取り構造 1 4 3 2 を介して第 2 部分 1 4 2 0 D-2 と連続し指で把持可能なつまみ片 1 4 3 0 A が設けられる。

切り取り構造 1 4 3 2 を構成する切り取り線は、複数の切れ目を間隔をおいて直線上に配置した構造など従来公知の様々な構造が採用可能である。

なお、第 2 部分 1 4 2 0 D-2 が切り取り構造 1 4 3 2 を介して切り取られるように、第 2 部分 1 4 2 0 D-2 は、一方の横接合部 1 2 0 2 A において、通気性シート 2 2 D に対して剥離できるように接合されている。

また、被切り取り部分 1 4 2 0 D の第 2 部分 1 4 2 0 D-2、つまみ片 1 4 3 0 A に、例えば、「切り取ってください」、「ゆっくりはがしてください」などの切り取る旨の表

10

20

30

40

50

示を設けると、薬剤収容袋 1 2 C の購入者は、使用時に第 2 部分 1 4 2 0 D-2 を切り取ればよいということが瞬時に判断でき、薬剤収容袋 1 2 C の使い勝手を向上する上で有利となる。

この場合、第 2 部分 1 4 2 0 D-2、つまみ片 1 4 3 0 A を、他の箇所比べて目立つ色彩や模様などを付しておく、薬剤収容袋 1 2 C の購入者は、使用時につまみ片 1 4 3 0 A、第 2 部分 1 4 2 0 D-2 から被切り取り部分 1 4 2 0 C を切り取ればよいということがより瞬時に判断でき、薬剤収容袋 1 2 C の使い勝手をより向上する上で有利となる。

なお、つまみ片 1 4 3 0 A を省略し、第 2 部分 1 4 2 0 D-2 から被切り取り部分 1 4 2 0 D を切り取ってもよいが、つまみ片 1 4 3 0 A を設けると、被切り取り部分 1 4 2 0 D の切り取りを簡単に行なう上で有利となる。

10

【0028】

図 1 8、図 1 9 (B) に示すように、非通気性フィルム体 1 4 E から被切り取り部分 1 4 2 0 D が切り取られた後に、非通気性フィルム体 1 4 E に被切り取り部分 1 4 2 0 D に対応した大きさの開口 2 4 D が形成される。

通気性シート 2 2 D は、薬剤収容袋 1 2 C の正面で薬剤収容部 1 2 2 0 の内部に位置する通気性フィルム体 1 4 D の内面 1 4 1 2 に設けられている。

通気性シート 2 2 D は、開口 2 4 D を覆う大きさの長形状を呈し、開口 2 4 D よりも大きい一定の幅で薬剤収容部 1 2 2 0 を通って一对の横接合部 1 2 0 2 の間にわたって延在している。

通気性シート 2 2 D は、薬剤収容部 1 2 2 0 では開口 2 4 D の両側箇所が非通気性フィルム体 1 4 E の内面 1 4 1 2 に接合され、一对の横接合部 1 2 0 2 の箇所では通気性シート 2 2 D は挟まれてそれらの間に接合され、上述したように、被切り取り部分 1 4 2 0 D の第 2 部分 1 4 2 0 D-2 は、横接合部 1 2 0 2 A の箇所では通気性シート 2 2 D に剥離可能に接合されている。

20

【0029】

第 4 の実施の形態の薬剤収容袋 1 2 C は、使用時に、図 1 7 (C) で示すように、つまみ片 1 4 3 0 A を摘まんで突出片 1 4 3 0 および一方の横接合部 1 2 0 2 A から第 2 部分 1 4 2 0 D-2 を切り取ると共に、第 2 部分 1 4 2 0 D-2 に連続する第 2 部分 1 4 2 0 D-1 を薬剤収容部 1 2 2 0 から切り取り、薬剤収容部 1 2 2 0 に開口 2 4 D を形成し、第 3 の実施の形態と同様に、図 1 2 に示すように容器 4 0 内に載置して使用する。

30

第 4 の実施の形態の薬剤収容袋 1 2 C によれば、商品の購入者は、被切り取り部分 1 4 2 0 D を切り取って使用すればよく、第 3 の実施の形態と同様に、ごみとなるのは被切り取り部分 1 4 2 0 D のみとなり、資源的な無駄を抑制する上で有利となる。

すなわち従来のように、薬剤収容袋 1 2 C の一方の面の全域を覆う大きな面積の外側フィルムや外側包装袋を省略でき、薬剤 1 6 の使用時に発生するごみの量を最小限とし、環境上好ましい薬剤収容袋 1 2 C が得られる。

【0030】

(第 5 の実施の形態)

次に、図 2 0 ~ 図 2 3 を参照して第 5 の実施の形態について説明する。

なお、図 2 2 の B-B 線断面図は図 1 9 (B) と同一となるため省略している。

40

第 5 の実施の形態は第 4 の実施の形態の変形例であり、図 2 0、図 2 1 (A) に示すように、薬剤収容袋 1 2 D の一对の横接合部 1 2 0 2 に第 4 の実施の形態の突出片 1 4 3 0 をそれぞれ設け、薬剤収容袋 1 2 D の長手方向の両側部の構造を同一に形成したものである。

すなわち、薬剤収容袋 1 2 D の長手方向の両側部に、第 4 の実施の形態の切り取り構造 1 4 3 2、第 2 部分 1 4 2 0 D-2、つまみ片 1 4 3 0 A が設けられている。

したがって、第 5 の実施の形態では、つまみ片 1 4 3 0 A から被切り取り部分 1 4 2 0 D を切り取ると、図 2 2、図 2 3 に示すように、薬剤収容袋 1 2 D の長手方向の全長に亘って、一对のつまみ片 1 4 3 0 A、一对の第 2 部分 1 4 2 0 D-2、被切り取り部分 1 4 2 0 D が切り取られ、図 1 9 (B) に示すように、開口 2 4 D が形成される。

50

このような第 5 の実施の形態によれば第 4 の実施の形態と同様な効果が奏される他、薬剤収容袋 1 2 D の長手方向両側の構造が同一であることから薬剤収容袋 1 2 D を簡単に製造する上で有利となり、薬剤収容袋 1 2 D のコストダウンを図る上で有利となる。

【0031】

(第 6 の実施の形態)

次に、図 2 4、図 2 5 を参照して第 6 の実施の形態について説明する。

なお、図 2 4 の A-A 線断面図と B-B 線断面図は図 2 1 (A)、(B) と同一となり、図 2 5 の A-A 線断面図は図 2 3 と同一となり、図 2 5 の B-B 線断面図は図 1 9 (B) と同一となるため省略している。

第 6 の実施の形態は第 5 の実施の形態の変形例であり、図 2 4 に示すように、切り取り用溝部 2 0 D を構成する一対の縦部 2 0 D-1 を薬剤収容袋 1 2 E の長手方向の全長にわたって延在させ、一対の横接合部 1 2 0 2、突出片 1 4 3 0 においてこの延長された切り取り用溝部 2 0 D の部分を第 2 部分 1 4 2 0 D-2、つまみ片 1 4 3 0 A の切り取りを可能とした切り取り構造 1 4 3 2 として利用したものである。

このような第 6 の実施の形態によれば第 5 の実施の形態と同様な効果が奏される他、薬剤収容袋 1 2 E の構造が簡単化することから薬剤収容袋 1 2 E を簡単に製造する上で有利となり、薬剤収容袋 1 2 E のコストダウンを図る上で有利となる。

なお、切り取り用溝部 2 0 D を構成する一対の縦部 2 0 D-1 を一対の横接合部 1 2 0 2、突出片 1 4 3 0 のうちの一方においてのみ延長させ、この延長された切り取り用溝部 2 0 D の部分を第 2 部分 1 4 2 0 D-2、つまみ片 1 4 3 0 A の切り取りを可能とした切り取り用構造として利用するようにしてもよく、この場合には、一対の横接合部 1 2 0 2 の他方では、図 1 6 に示す第 4 の実施の形態のように、一対の縦部 2 0 D-1 の端部を横部 2 0 D 2 で接続するなど任意である。

また、第 4 ~ 第 6 の実施の形態において、横接合部 1 2 0 2 上において切り取り部分 1 4 2 0 D に連続する第 2 部分 1 4 2 0 D-2 を切り取るための切り取り構造 1 4 3 2 が、切り取り線や、切り取り用溝部 2 0 D を延長させた溝で形成されている場合について説明したが、切り取り構造 1 4 3 2 は、非通気性フィルム体 1 4 E を厚さ方向に貫通するスリットで構成するなど任意であり、従来公知の様々な構造が採用可能である。

【0032】

なお、第 4 ~ 第 6 の実施の形態の切り取り用溝部 2 0 D を構成する一対の縦部 2 0 D-1 を薬剤収容袋 1 2 E の長手方向にわたって延在させ、一対の横接合部 1 2 0 2、突出片 1 4 3 0 においてこの延長された切り取り用溝部 2 0 D の部分を第 2 部分 1 4 2 0 D-2、つまみ片 1 4 3 0 A の切り取りを可能とした切り取り用構造として利用する構造は、第 1、第 2 の実施の形態にも適用可能である。

例えば、図 1 に示す第 1 の実施の形態では、互いに対向する非通気性フィルム体 1 4 A、1 4 B が接合された 4 辺 1 4 0 2 のうち互いに対向する一対の 2 辺 1 4 0 2 間にわたって通気性シート 2 2 A を設け、一対の 2 辺に位置する非通気性フィルム体 1 4 A に切り取り用溝部 2 0 A に連続する切り取り用構造を設け、被切り取り部分 1 4 2 0 A を一対の 2 辺 1 4 0 2 間にわたって切り取るなど任意である。

また、図 6 に示す第 2 の実施の形態では、通気性シート 2 2 B を互いに対向する一対のフランジ 3 2 0 2 上まで延在させ、一対のフランジ 3 2 0 2 上に位置する非通気性フィルム体 1 4 C に切り取り用溝部 2 0 B に連続する切り取り用構造を設け、被切り取り部分 1 4 2 0 B を一対のフランジ 3 2 0 2 間にわたって切り取るなど任意である。

【0033】

なお、本実施の形態では、非通気性フィルム体 1 4 A、1 4 C、1 4 D、1 4 E に設けられる被切り取り部分 1 4 2 0 A、1 4 2 0 B、1 4 2 0 C、1 4 2 0 D が単一であり、また、切断予定箇所 2 8 A、2 8 B、2 8 C で挟まれた非通気性フィルム 2 6 A、2 6 B、2 6 C の箇所毎に設けられる被切り取り部分 1 4 2 0 A、1 4 2 0 B、1 4 2 0 C が単一である場合について説明した。

しかしながら、薬剤収容袋 1 2 A、1 2 B、1 2 C、1 2 D、1 2 E、薬剤収容容器 3

0に収容する薬剤16の成分や使用形態に応じて、図26に示すように、非通気性フィルム体14Fに、あるいは切断予定箇所であつた非通気性フィルム26Eの箇所毎に、互いに間隔をおいて被切り取り部分1420Eをそれぞれ切り取り用溝部20Eにより複数設け、それら被切り取り部分1420Eが切り取られることで形成される複数の開口24Eを単一の通気性シート22Eで覆うようにしてもよい。

このように複数の開口24Eを単一の通気性シート22Eで覆うようにすると、通気構造18Eを簡単化し、部品点数を削減化し、通気構造18Eを有する非通気性フィルム体14Eを備える薬剤収容袋12A、12B、12C、12D、12E、薬剤収容容器30のコストダウンを図る上で有利となり、通気構造18Eを有する非通気性フィルム26Eのコストダウンを図る上で有利となる。

10

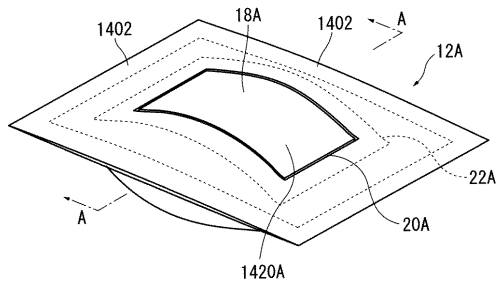
【符号の説明】

【0034】

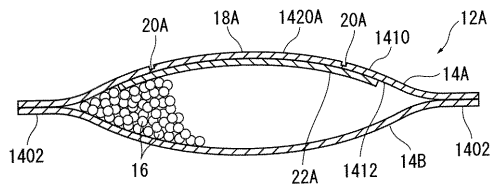
12A、12B、12C、12D、12E 薬剤収容袋
 14A、14B、14C、14D、14E 非通気性フィルム体
 1410 外面
 1412 内面
 1420A、1420B、1420C、1420D、1420E 被切り取り部分
 1430 突出片
 1430A つまみ片
 1432 切り取り用構造
 16 薬剤
 18A、18B、18C、18D、18E 通気構造
 20A、20B、20C、20D、20E 切り取り用溝部
 22A、22B、22C、22D、22E 通気性シート
 24A、24B、24C、24D、24E 開口
 26A、26B、26C、26D、26E 非通気性フィルム
 28A、28B、28C 切断予定箇所
 30 薬剤収容容器

20

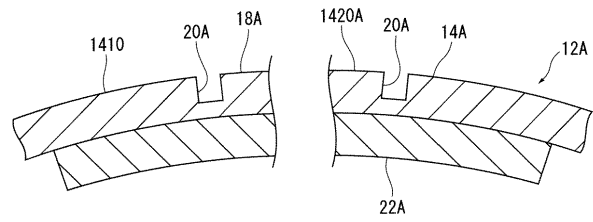
【図 1】



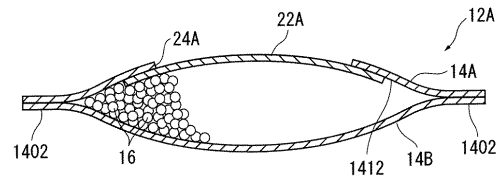
【図 2】



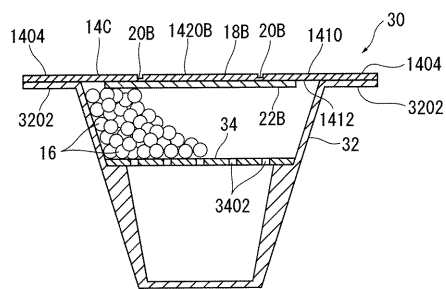
【図 3】



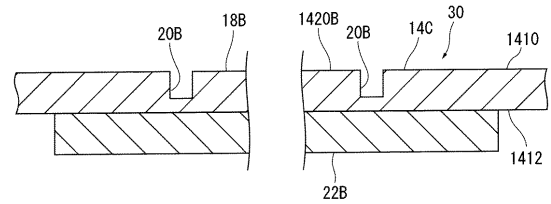
【図 4】



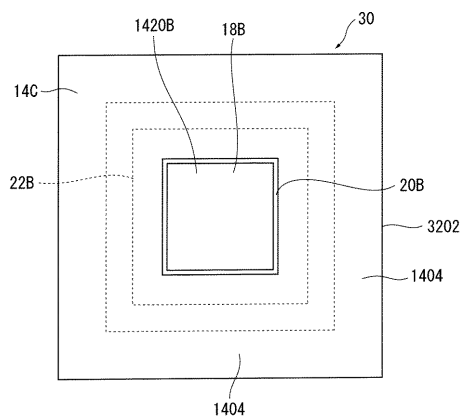
【図 5】



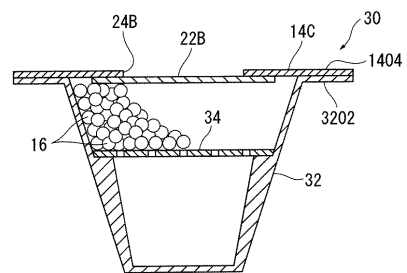
【図 7】



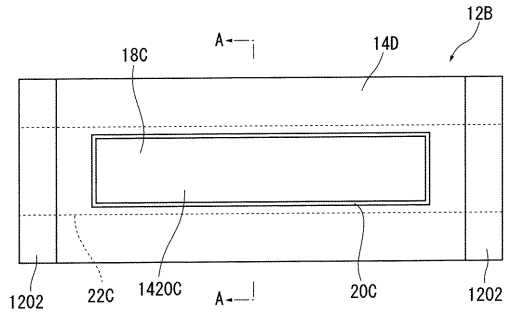
【図 6】



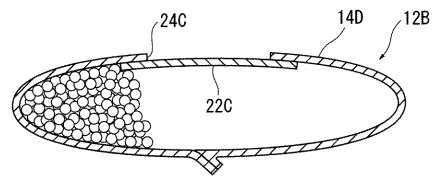
【図 8】



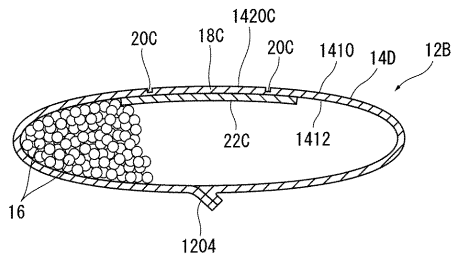
【図 9】



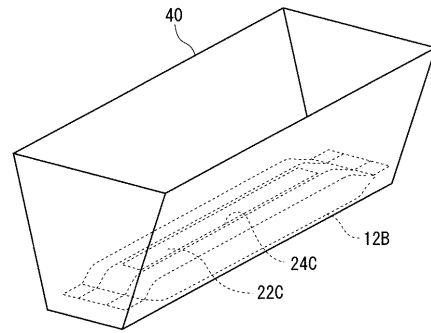
【図 11】



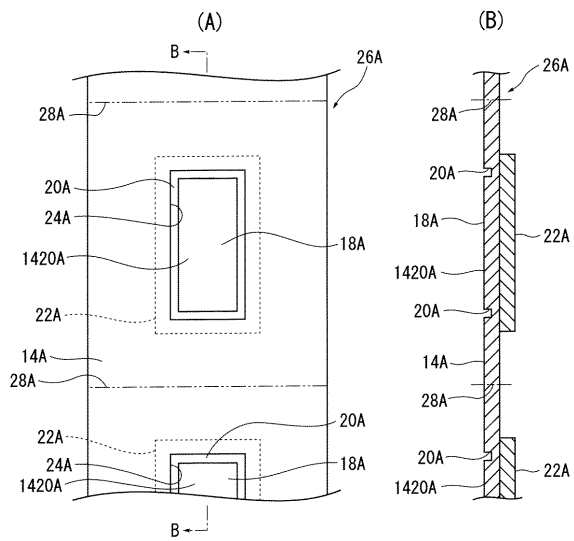
【図 10】



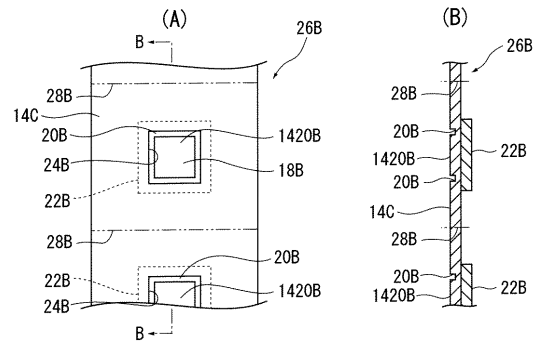
【図 12】



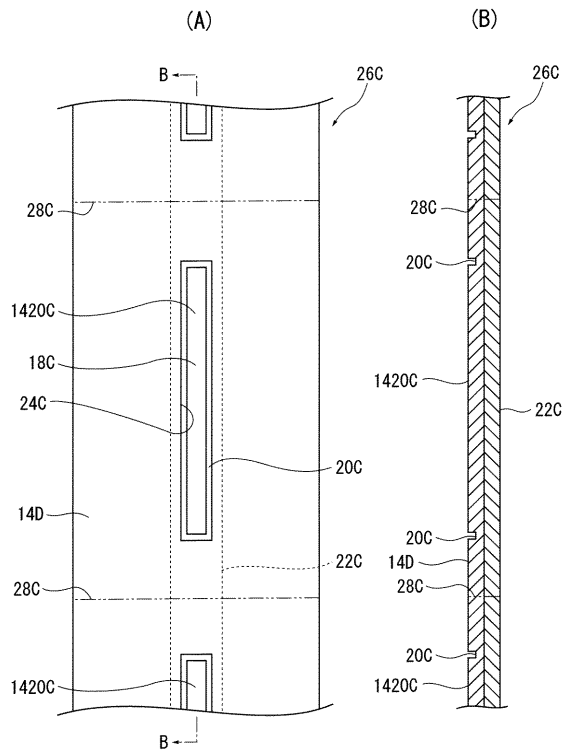
【図 13】



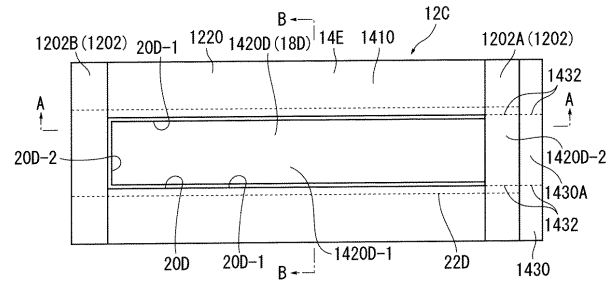
【図 14】



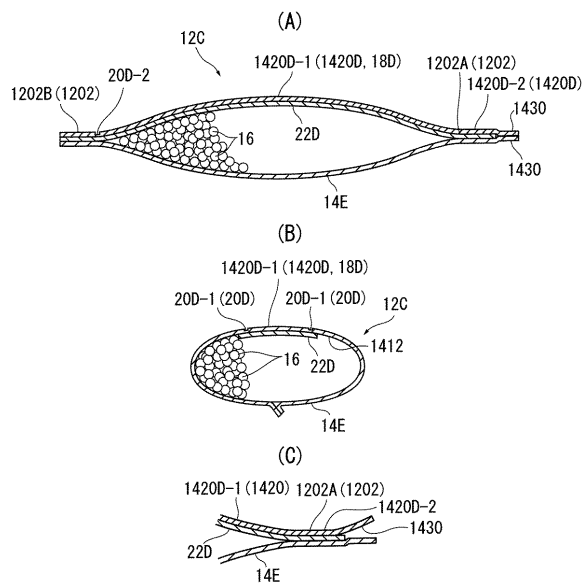
【図 15】



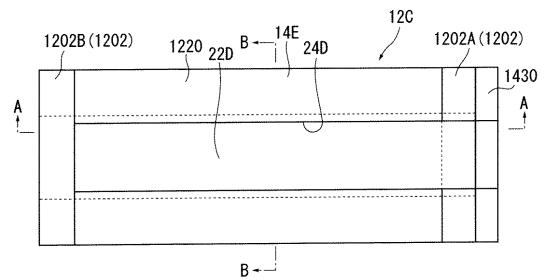
【図 16】



【図 17】



【図 18】



【図 19】

